

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670102542
法人名	社会福祉法人 愛心会
事業所名	グループホーム 桜
訪問調査日	平成20年4月9日
評価確定日	平成20年5月9日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670102542		
法人名	社会福祉法人 愛心会		
事業所名	グループホーム 桜		
所在地 (電話番号)	鹿児島市下福元町狩集9057番地		(電 話) 099-210-8655
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島		
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号		
訪問調査日	平成20年4月9日		

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成13年11月10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 6人, 非常勤 10人, 常勤換算	15.5人

(2)建物概要

建物構造	木造		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 300,000 円 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000円	

(4)利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	5名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.1歳	最低	76歳	最高	96歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	中山クリニック、朝隈歯科、鹿児島徳洲会病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの名称にもあるように、桜の木々に囲まれた自然豊かな場所に建てられている。ホーム内の随所に絵画や竹細工の作品があり、落ち着いた雰囲気を感じられる。全居室にトイレと洗面台が設置されており、他の入居者に気兼ねすることもなく、安心してプライバシーに配慮された生活を送ることができる。職員は明るく、入居者と共に歌を歌ったり、色々な話をしたりして、共に過ごす時間を大切に思いながら日々のケアに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回課題となった「市町村との関わり」について、全員で改善に向けて話し合う機会が持たれ、ホーム内で起こった内容等についての相談を、市の担当者へ持ちかけて解決していくようにするなどの取り組みが始まっている。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は自己評価の項目とその内容について理解しているが、管理者と計画作成担当者が中心となって行っており、職員の関わりはやや少ない。外部評価の改善項目については、職員全員で話し合う機会が持たれ、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回、ホームの行事に合わせて開催して、現状を見ていただく工夫を行っている。評価への取り組み状況について、報告や話し合いは行われていない。また、今のところ市の担当者は出席していない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	いつでも誰でも意見や要望、苦情等を表出できるよう意見箱が設置されている。また、年1回家族会が開催され、ご家族が意見を出しやすいような会になるよう雰囲気づくりを行っている。意見や苦情等をいただいた際は、職員ミーティングで話し合いが持たれ、検討されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	民生委員との関わりを深めて、地域に関する情報を得たりホーム運営に対する協力をもらえる関係を築いている。しかし、町内会や自治会等の活動への参加については、入居者のADLも年々後退しており、なかなか困難な現状である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を、職員全員で話し合い、これまでの理念を見直し、「地域住民との交流」という文言を理念の中に新たに追加している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、職員全員で理念の唱和を行い、日々のケアの中で意識するよう取り組んでいる。また、月1回の職員ミーティングの際、理念について振り返りが行われ意識の統一が図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現在、民生委員との関わりを深め、地域に関する情報を得たり、ホーム運営に対する協力をもたらえる関係を築いている。しかし、町内会や自治会等の活動への参加については、入居者のADLも年々後退しており、なかなか困難な現状である。	○	隣接するケアハウスを含め、施設を活用した地域との交流の検討が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価の項目とその内容について理解しているが、管理者と計画作成担当者が中心となって行っており、職員の関わりはやや少ない。外部評価の改善項目については、職員全員で話し合う機会が持たれ、改善に向けて取り組んでいる。	○	自己評価について、職員全員で行うことの意義を再度確認し、全員が同じ意識を持って、ケアの振り返りや質の向上に取り組むことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、ホームの行事に合わせて開催して、現状を見ていただく工夫を行っている。評価への取り組み状況について、報告や話し合いは行われていない。また、今のところ市の担当者は出席していない。	○	運営推進会議の意義、役割を再度確認し、評価への取り組み状況等について報告することで、サービスの質向上のための話し合いの場としていただきたい。市の担当者に対しては、会議に参加するよう積極的に働きかけていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者との関わりを通して、何らかの疑問点や分からないことがある場合は、市の担当者への相談を行い、指導や助言を受けている。その他には交流機会はなく、行き来するような関係づくりも積極的には行われていない。	○	市の担当者との関係づくりを積極的に行うことで、行き来する機会を設け、ホーム運営に役立てることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態や暮らしぶりについてまとめた詳細な書面を、毎月ご家族に郵送している。行事が行われた際は、その写真も添えられている。金銭管理については、面会時に出納帳の確認をしていただき、遠方のご家族に対しては、出納帳の写しを定期的に郵送している。職員の異動については、特に報告はしていない。	○	ご家族にとって、日々入居者と生活を共にする職員は大きな存在であり、その異動の情報も適宜報告していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも誰でも意見や要望、苦情等を表出できるよう意見箱が設置されている。また、年1回家族会が開催され、ご家族が意見を出しやすいような会になるよう雰囲気づくりを行っている。意見や苦情等をいただいた際は、職員ミーティングで話し合いが持たれ、検討されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者へのダメージを考慮し、法人内の職員の異動は行っていない。やむを得ない離職に対応するため、ユニット間の職員の行き来を普段から頻繁に行い、日頃から多くの職員が馴染みの関係を築くことで、離職によるダメージを和らげるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、地区グループホームの勉強会へ、夜勤者以外の全職員が参加している。外部研修については、随時、管理者より職員へ情報提供がなされているが、計画に基づいたものとはなっていない。	○	管理者は、職員それぞれに必要なと思われる研修についての構想を持っているが、未だ研修計画を立て実施するところまでには至っていない。職員の経験や能力等に応じて段階的に育成するための研修計画を立てて、実施することを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地区の管理者間での交流機会があり、ホームの現状について話したり相談等を行っている。また、近くのホーム同士で行き来できる関係ができており、それぞれの職員がお茶飲みを訪れたりするなど、互いに勉強する機会を設けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に至るまでの間、お茶飲みや遊びに来ていただいて積極的に関係づくりを行っている。納得が得られないままの入居については、ご家族の協力を得て長時間付き添っていただくなど、少しずつ生活の場として馴染んでいただけるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、入居者自身が自分でできることについては、職員が口を挟まないように心掛けて接している。味噌や梅干作り、つわのむき方、いもち作りや餅つきなど、料理について分からないことは、教わりながら行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、どのような生活を望んでおられるのか、習慣や好き嫌いは何かなど、細かく情報収集を行っている。さらに、日常生活での言動からの気づきを記録し、職員間で共有している。思いや意向の把握が困難な方については、ご家族に確認したり、表情を見て理解するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者と接する際に気付いたことは、その都度ケース記録に記入し、毎月のカンファレンスにおいて検討している。これらをベースに介護計画を作成しており、ご家族の意見は作成した介護計画を確認していただく際に聞いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は原則1年ごとに見直しを行っている。また、定期的にモニタリングや評価を行うとともに、毎月カンファレンスを行い、必要な関係者と話し合っているが、計画の見直し、変更には至っていない。	○	定期的実施しているモニタリングや評価、カンファレンスに基づき、必要な場合は、期間の途中であっても現状に即した見直し、変更を行っていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、受診の支援、糖尿病の方のインスリン接種等、医療処置を受けながらの生活の継続、早期退院に向けた医療機関との連携等、柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もこれまでのかかりつけ医を継続できるように支援しているが、訪問診療が必要になった場合には、本人とご家族の同意のもとで協力医療機関へ変更している。受診結果は、その都度ご家族へ電話で報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護師を配置し、医療連携体制を整備したことで、重度化や終末期の状態にある入居者についても、積極的に受け入れるようにしている。このことについては家族会で説明を行い、さらに必要に応じて個別に説明してご家族の同意を得ている。今後も、定期的にご家族や主治医と、重度化や終末期に向けた方針の確認を行っていく体制にある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーが守られるように、入浴は他の入居者と一緒ににならないよう配慮したり、個室にあるトイレ使用時は、居室のドアを閉めるなどの配慮を行っている。記録類については職員室にて記入し保管しており、第三者の目に触れない仕組みとなっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れの中で特に行動を制限することはなく、入居者それぞれが自由な時間の過ごし方をしている。好きなことや習慣となっていることを優先して、常に入居者の希望を聞き確認をとって接している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなど簡単な調理作業は、促さずとも入居者自ら行っている。また、食後の片付けについても、積極的に食器洗いを行う姿が見られたり、入居者同士で声かけするなど、和気あいあいとした雰囲気が感じられる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯など一定の目安はあるが、入居者の希望に応じて柔軟に対応している。入浴を拒否される方もいらっしゃるが、適切な声かけによって促している。しかし、決して無理強いすることはなく、入浴を楽しく行えるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	包丁研ぎや掃除のほか、新聞記事を要約して皆さんに伝えるなど、それぞれの得意なことや楽しみごとを大切にしながら毎日を過ごせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に沿って、買い物や散歩、花見等に出かけている。車椅子の方も、希望を聞いていつでも外出できるように体制を整えている。年間行事の中に、季節感を味わえるようなドライブが計画されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの周囲は民家も少なく山も多いことから、安全面を考慮してご家族の同意の上で玄関には鍵をかけている。あくまでも安全面を考慮しての対応であり、希望される場合は一緒に付き添い外出している。	○	安全面を考慮した上での施錠ではあるが、鍵をかけない暮らしを実現すべく、見守りの徹底等の対応策を検討していただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接するケアハウスと協力して自衛消防組織を作っており、定期的(年2回)に災害訓練を実施して災害時に備えている。地域の人々の協力を得られるような働きかけは、今のところ行われていない。	○	運営推進会議や日頃の地域との交流の中で、災害時の協力関係を築かれるような働きかけに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については、隣接するケアハウスの栄養士が定期的にチェックし栄養バランスに配慮したものとなっている。食事や水分の摂取量については、チェック表等を活用せずに職員が個々に支援している。	○	食事量や水分量が一日を通じて必要量確保できるように、チェック表等を活用して、職員間での情報共有に努めていただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには畳やソファのスペースがあり、日中のほとんどの時間をそこで過ごされる方が多い。仲の良い方同士や一人でゆっくりくつろげる空間として、ソファや仕切られたスペースが廊下のあちらこちらに設置してある。季節を感じさせる装飾品も随所に見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居者の希望が尊重され、好みの家具や装飾品が持ち込まれており個性が感じられる。全居室にトイレが設置しており、プライバシーが確保されている。		